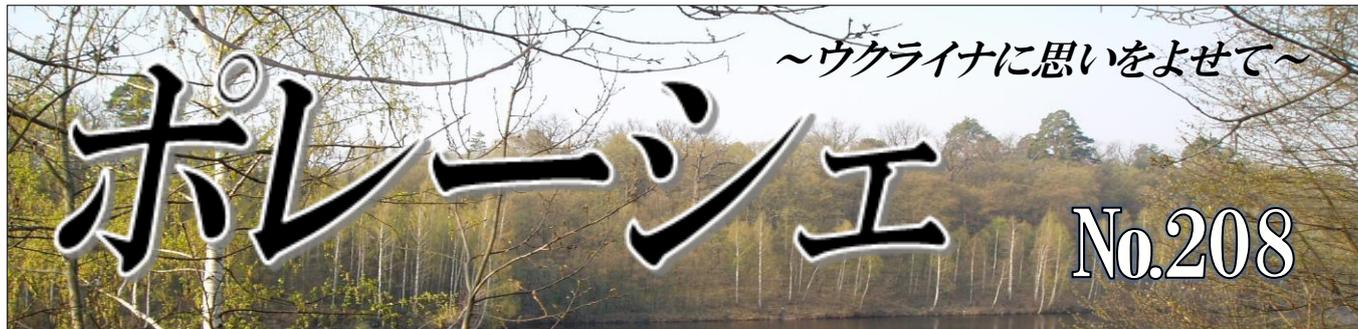


「ポレーシェ」とは、チェルノブイリ付近の湖沼低地帯の呼称です。



2026年2月15日発行 特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

## 福島原発事故から15年、チェルノブイリ原発事故から40年 を迎えるにあたり

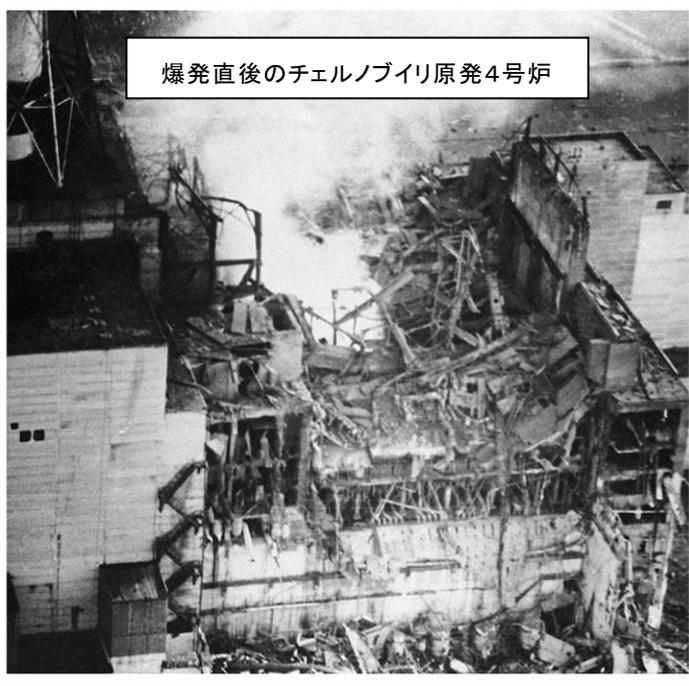
池田 光司

以前、NHKで「その時歴史は動いた」という番組がありました。はたして、チェルノブイリ原発事故、そして福島第一原発事故が起きた時から歴史は動いたのでしょうか。残念ながら歴史は動いていないように思えます。

日本では、老朽化した原発を再稼働させるために法律まで作って動かし始めました。加えて原発の新設、核燃料サイクル施設の稼働の計画も進めようとしています。福島第一原発事故当時、日本では54基もの原発がありました。エアコンの普及により電力需要の増加に呼応するように原発が増えました。



南相馬市北部海岸(原発から北30Km)〈2011年4月22日〉



今、AIの普及により電力需要が増えると言われていますが、歴史が繰り返されないか心配です。また、ウクライナでは、稼働中の原発がロシアの軍事侵攻で危機にさらされています。原発が事故を起こせばどういことが起きるのか分かっていながら、それでも原発を攻撃する人々はいるとことが示されています。

起こった事実、起きている事実から離れたイメージが造り出されていく時、多くの人々が危機にさらされることを歴史は示していると思います。原発と原発事故で何が起きて、何が起きているかという事実を、一人でも多くの人々が、特に次世代の人々が認識する大切さをあらためて感じます。

**【2025年12月23日】 クリスマスの前夜の出来事**

劇場のチケットを28枚購入し、5枚の招待券を無料で提供してもらいました。少し儉約できたわけです。ジトーミルの劇場はレパトリーを完全に更新し、今は演出も現代的なものになっていて、舞台装置も美しいです！

今日、夜中から午前中ずっと、ジトーミル州は爆撃に見舞われました。60機のシャヘード[爆撃用ドローン]、さらに無人飛行機、ミサイルが飛んできたのですから、眠れませんでした、恐ろしかったです。私の集合住宅の近くで、また爆撃があり、高層アパートが破壊されました。そして死者も出ました。4歳の女の子が亡くなり、12歳の姉は集中治療室にいます。私は人のいるところの方が何となく落ち着くので、シェルターで時間を過ごし、その後カフェに行きました(自宅は停電)。

これがクリスマスの前夜の出来事です…。 皆さんご多幸とご健康に恵まれますように、 ジェーニャ』

**【2026年1月6日】**(フェイスブックで)ナロジチの子供たちの写真をご覧いただけて、とてもうれしく思います。彼らにとって幸せなひと時でした。

**【ナロジチ学校の子供たちの遠足の感想】**

ジトーミル市でお正月の劇を見て、アトラクション・パークに行ったのはとてもうれしかったです。マクドナルドでの

おいしい食べ物も、ポジティブな気分を盛り上げてくれました(ラフィツクイイ・ニキータ)／わたしはローラースケートがきにいました。たのしいからです。いっぱいいたのしいおもいをして、たのしいじかんをすごしました(ロマーノヴァ・オレクサンドラ)／遠足は気に入りました。いい思い出が残ったからです(ベスメルトナ・ソフィーヤ)

**【1月16、19日】 冬用帽子・ネックウォーマーの**

**プロジェクト**

ナロジチとオヴルチが一番被害を受けています。ナロジチでは空襲警報が16時間に及び、子供たちはリモートで学習しています。オヴルチでは電気が復旧したばかりで、それまで2日間停電していました。

おそらく、冬用帽子・ネックウォーマーのプレゼントは郵送し、教師たちが可能性に応じて子供たちを学校に呼び、手渡すことになるでしょう。厳しい寒さがほとんど1か月続いていて、日中零下10℃、夜間は零下22℃まで下がります。

**【2026年1月26日】 学校の授業が始まりました**

今日は朝から、各学校のうれしいお知らせがありました。学校での授業が始まったのです。皆、子供たちがこれからも学校に行って勉強できることを願っています。私

は帽子とネックウォーマーのセットを郵送しました。

先週は、コロステン地区で施設が大きな被害を受けました。2019年に日本に行ったヘライモヴィチ消防士たちが、その消火にあたったと聞いています。

**【事故処理作業支援について】**

事故処理作業支援に関するご提案、了解しました。私は「プリピャチ・センター」と「チェルノブイリの消防士たち」に連絡を取り、人数を確認し、少しずつ医薬品のリストを作成します。前もって準備しておいた方がいいでしょう。



**【2025年11月16日】ナターリヤは火傷で亡くなりました**

昨夜、シャヘッド[無人爆撃機]がナターリヤ・ホデムチュクのアパートに飛来しました。彼女は最初にチェルノブイリの寡婦となった人です。彼女の夫は、チェルノブイリ原発事故の最初の犠牲者です。彼の遺体は[放射線量が高く近づけないため]現場に残っています。ナターリヤは今日、火傷のため亡くなりました。彼女のアパートは全焼しました。この建物にはチェルノブイリ被災者たちが住んでおり、ほとんど全員が「ゼムリャキ」のメンバーです。私の集合住宅の直近で、3棟の建物が被災し、死傷者が出ました。

**【2025年12月20日】子どもたちへのクリスマス・カード**

私たちは、子供たちへのすばらしいクリスマス・カードを受け取りまし



た。クリスマスの前に配布を始めます。そちらの子供たちのすばらしい作品に感謝し、このキャンペーンの運営に対してお礼申し上げます。

いただいた支援金についてのご報告を少しずつ始めたいと思います。私たちは 7,954 グリヴナで食品を、24,710 グリヴナ+5,607 グリヴナで医薬品を購入しました。

よい一日、あるいは一晩を！

**【2026年1月3日】3日間電気、水、暖房がなく**

クリスマスの後、皆が予期していなかった時に、激しい爆撃がありました。私たちの地区の発電所が攻撃を受け、3日間電気、水、暖房がありませんでした。私たちの団体の車も被害を受け、ガラスが割れ、ドアのロックが壊れました。修理しますが、お金がたくさんかかります。この車なしではどうにもなりません。古い車ですが、もう20年、ほとんど毎日のように使っています。私たちは困難を乗り

越え、持ちこたえています。皆さんによりしくお伝え下さい！

**【1月23日】爆撃で壊された配送車**

お返事ができずすみませんでした。1月18日の爆撃後、電気、水、集中暖房がありませんでした。今日になってやっと電気がつきましたが、それも長い間ではありません。急いでお返事を書きます。

私たちの団体の車は、日本大使館から2005年に支援



されたもので

す。そしてこの間、団体の仕事にとって不可欠の課題を遂行してきました。障害者や子供たちのための人道支援物資の運搬です。医薬品や医療用品の配送、食品の輸送と配送、村々に住んでいる避難民のための人道支援物資の配送、障害者の移送など。その支援物資の購入と配送はヴォランティアを通じて行います。今、車がなければ、このような支援を行うことは極めて困難です。ミサイルによる2025年12月27日の爆撃後、衝撃波によって、車のすべてのドアのキーが損傷を受け、ガラスが割れました。厳しい寒さのため、直近の修理工場まで運ぶことができません。それでもなんとか、私たちの助っ人であるこの車を修理し、人々を支援するための役割を果たしていこうという、希望を失くさないでいます。無関心ではられない



全ての方々に、心から感謝します。

皆さんどうぞお元気で！

敬意を込めて

「ゼムリャキ」一同

## 2025 年度クリスマスカードキャンペーン のご報告



今年も皆様のご協力のおかげで、たくさんのカードを贈ることができました。ウクライナ宛には 1327 枚、福島宛は 776 枚、合計 2103 枚のカードが集まりました。カードはどれも素晴らしく、心をこめて製作してくださった方がたくさんいるということが大変嬉しいです。クリスマスという特別な時間、カードを通して、子どもたちの心に穏やかさや安らぎが届いたのではないのでしょうか。



ウクライナからもクリスマスカードが届き、主に福島の幼稚園や学校に配布しました。国境を超えて日本とウクライナがカードを通して繋がることは素敵なことだと思います。たくさんのクリスマスカードのご協力本当にありがとうございました。子どもたちが 1 日

も早く、戦争や原発事故に脅かされることなく、健やかに過ごせるようになることを祈っております。



### ウクライナの子ども達の絵画展 ～戦時下の子ども達からのメッセージ～ 開催しませんか！！

2023 年 10 月、第一回ウクライナの子ども達の絵画展を開催しました。ロシア侵攻から 2 年目の戦時下に子どもたちが描いた絵画の数々。それら絵画を届けてくれたカウンタパートナー・キーウのクラシツカさん、そしてジトーミルのドンチェヴァさんからメッセージが届いています。

「戦争は、幸せな子ども時代と喜びを奪い去りました。多くの子ども達は、両親がウクライナ侵略の戦いで命を落としたため、孤児となりました。」「爆撃と自分たちの命への脅威にもかかわらず、絵を学び、自分の思いと感じたことを紙の上に移すことを続けているのです。」

未だ爆撃は激化し状況は悪くなるばかりです。その残酷で愚かしい戦争の中で、現実を直視し悲しみ苦し泣き、しかし、希望を手放さず光を放ちながら生きる子どもたちの声。子どもたちは、絵は、その声を聴いてほしいと語っています。

「ウクライナの子ども達の絵画展」は今年の 1 月までに全国 23 カ所で開催されました。全国どこへでもお届けします。ご一報を！（山盛）

#### 【今後の絵画展の予定】

- 2 月 28 日（土）／愛知県一宮市：尾州ファッションデザインセンター視聴覚室 4F
- 3 月 26 日（木）～29 日（日）／大阪市阿倍野区：阿倍野市民学習センター・ギャラリー



原子力規制委員会は1月14日、安全審査中の中部電力浜岡原発3号機と4号機の安全審査を中止する、と発表した。浜岡原発は15年前の福島原発事故の際に、当時の菅直人首相が事故が起これば首都圏に大きな被害が起こる恐れがある、として運転停止命令を出した経緯がある。中部電力は再稼働を目指して安全審査申請書を2014年2月(4号機)、2015年6月(3号機)に提出していた。規制委員会は10年以上この審査を続けてきた。浜岡原発は今後予想される南海トラフ地震の予想震源域の真上にあり、慎重な審査が求められていた。その申請書が偽造だった。こうした偽造は浜岡原発だけだろうか。この問題の本質は何か。

### 偽造は外部通報で発覚

今回の原発の安全審査の根幹をなす南海トラフ地震の揺れの大きさを示す「基準地震動」は、地盤の構造や過去の地震データをもとに今後の地震による最大の揺れの推定である。そのためには想定される地震の震源域の位置や深さ、幅等をもとに、原発の敷地の地層の構造から最大の揺れを推定する。浜岡原発の場合、20組の地震動とその代表的な揺れを選定した事になっていたが、実際には数千組の地震動を作成し、その中から最も揺れの少ないデータを平均値とし、それに合うように残りのデータを改竄していた。それが分かったのは「公益通報」という制度で、社員が不正の事実を外部に通報した場合、その権益を保護する制度である。中部電力の社員が今回の不正を原子力規制委員会に通報したのは昨年2月だった。規制委員会は通報者の意見を受けて中部電力に事実関係の調査を促し、中部電力が内部調査の結果、もはや隠し切れないと判断して規制委員会に報告したのがこの1月5日、11か月も後である。

### 原子力規制委員会の無能

今回の問題の最大の責任は勿論、中部電力にある。だが、筆者は規制委員会の無能こそが今回の事件の本質だと考える。浜岡原発の安全審査は外部通報があった後も継続して続けられ、3号機の安全審査は昨年12月5日で82回目、4号機に至っては156回目だった。安全審査は昨年2月の外部通報後も着々と進められていたのだから。

外部通報があった段階で安全審査を中止し、独自に過去の提出データの偽造をチェックすべきだった。外部通報から11か月も経って中部電力が偽造を認めざるを得なくなり、初めて規制委員会も偽造を認めた。規制委員会は安全審査における電力会社からの提出データの確かさを独自にチェック出来る能力を持たないのか。外部通報がなく、そのまま安全審査が通っていたら南海トラフ地震で浜岡原発はフクシマ以上の被害をもたらすに違いない。

### 浜岡原発を廃炉に

浜岡原発は1、2号機が廃炉作業中で、今後3～5号機が運転を予定している。今回の不正事件で、さすがに規制委員会の委員長も腹に据えかねたか、「安全審査を白紙」まで言わざるを得なくなった。是非、そうして欲しい。安全審査が終わらなければ原発の再稼働は出来ない。浜岡原発は今後の地震による津波対策として、高さ22～24m、長さ1.6Kmの防潮堤を設置している。この防潮堤も偽造された基準地震動による津波の高さを基準にしていまいだろうか。

何れにせよ、南海トラフ地震は前回1946年12月21日に発生しており、今年で80年目を迎える。今回の発生は2035年±5年と想定されている。もう目の前である。一刻も早く浜岡原発の廃炉を決定し、未来世代の安全性を確保しなければならない。それが現役世代の責任ではないか。

(2026年1月21日 河田)

### 【寄付・会員状況のお知らせ】

- ◆10月 寄付／会費 205,000円
- ◆11月 寄付／会費 355,362円
- ◆12月 寄付／会費 439,348円
  
- ◆2025年度累計（ウクライナ救援基金を除く）  
2,555,942円（12月末）
- ◆2025年度ウクライナ救援基金 1,946,540円（12月末）
- ◆ウクライナ救援基金累計 30,710,740円  
（2022/3/7～2025/12/31）
  
- ◆会員数 161名
- ◆ポレシェ読者数 707名  
～心温まるご支援をありがとうございました～

### 【寄付のお願い】

- ◆銀行振込先  
三菱UFJ銀行 高畑支店 普通 1682863
- ◆郵便振替 00880-7-108610  
〈口座名義〉  
特定非営利活動法人チェルノブイリ救援中部
  
- \*クレジットカードでも受け付けております  
（ページ下のQRコードから寄付ページへアクセス！）
  
- ※手書き領収書の郵送が必要な方はご連絡ください

当団体は「認定特定非営利活動法人」ではございませんので、ご寄附は税額控除の対象にはなりません。ご了承のほどお願いいたします。

## 仏教法人アユス助成金による

### ウクライナの国内避難民支援

ロシアによるウクライナ侵攻から4年目の今、首都キーウは寒い冬の真っ盛り。爆撃による停電で人々は厳しい生活を余儀なくされている。戦争が続く東部地域からのウクライナ国内避難民は、UNHCR(国連高等弁務官事務所)によると、370万人を超える。女性や子ども、高齢者や病人などである。

チェルノブイリ原発の地元プリピャチからの避難民団体「ゼムリャキ」代表のタマーラさんからの「首都キーウの国内避難民を支援したい」という要望に応え、昨年度もご支援いただいた仏教法人「アユス」に申請したところ、再び2025年度の「時局対応助成金(50万円)」を頂いた。早速、昨年10月に外貨送金し、ゼムリャキが首都キーウの行政と協議して、国内避難民450名に食品(砂糖、ソバ、米、リンゴジュース、食用油:1035円/人:総額465,767円)と、高齢や病気で寝たきりの避難民(200名)に、紙おむつ(209円/人:総額41,786円)を支援した。若干の不足分はゼムリャキが負担した。仏教法人アユスに心から感謝申し上げます。  
(担当:河田)



食品を受け取った国内避難民

## 柏崎刈羽原発再稼働容認に抗議「人間の鎖」行動に参加しました

～南箕輪村 原 富男～

11月25日の行動に参加しました。前段集会では主催者から「再稼働を容認した知事



の判断は原則にもとる、不祥事続きの東電は信頼できない」、県民投票を目指そうとの呼びかけがありました。集会後1200名の参加者が県庁を取り囲み「人間の鎖」を作り抗議の声を上げました。往復の車窓から見えた原発からの高圧電線と鉄塔、広い田んぼの風景を見て、事故が起きたら新潟のコメは全滅、被害甚大と思いました。



発行 特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部

〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目11-33 ST PLAZA TSURUMAI 本館5B

TEL&FAX 052-228-6813 (月・水・金 10:00～15:00)

E-mail chqchubu@muc.biglobe.ne.jp URL <http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

印刷 エープリント

